

研究タイトル：

語学教育へのテクノロジーの応用



氏名： 亀山 太一 / KAMEYAMA Taichi E-mail: kame@gifu-nct.ac.jp

職名： 教授 学位： 教育学修士

所属学会・協会： 全国高等専門学校英語教育学会

キーワード： 英語教育, 教育工学

技術相談
提供可能技術：
・理工系学生のための英語教育
・英語 E ラーニング

研究内容： 授業課題の自動化による個別指導の充実

40 人前後の学生を1クラスに集め、1人の教員が授業を行い、すべての学生に授業の細部まで理解させることは困難なことであるが、コンピュータを「2人目の教師」として利用することでその実現に近づけることを研究している。

図1、図2は、語彙を学習させるためのものである。図3～5は文法学習のためのプログラム、まずは図3の画面で英作文をする。このとき、定型的な誤りに対しては自動的にヒントが出る。作文問題に正解したら、同じ文内の各語の品詞を答えさせる(図4)。さらにその文の主語、述語動詞、目的語等(SVOC)を答えさせる(図5)。この「作文、品詞、SVOC」の3つを合わせて「文法トリニティ」と呼んでいる。図6はクローズテスト形式の文章読解プログラムで、空欄に入る語を選択肢から選んで答えるものだが、すべての空欄を埋めた後、採点は1回しかできない(やりなおしはできない)というのが特徴である。また、満点の半分以下は0点になるという仕様になっているため、当てずっぽうで答えて少しずつ点を稼ぐということもできないようにしている。

これらの課題はすべて点数化して一覧されるようになっており、それが動機付けにもつながる。また、これらの課題の遂行と、誤りへの自動的なヒント表示、および採点・集計を極力自動化することにより、教師はほぼ完全に「個別指導」が可能になる。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	